

第一學年女子用

高等國語書  
小學部

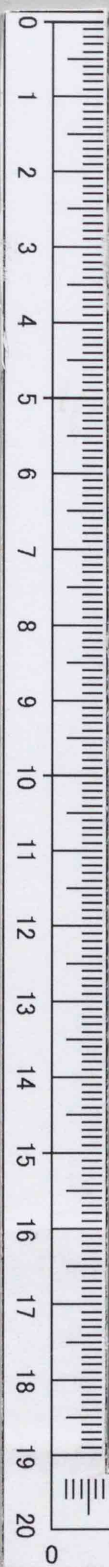
文部省

広島大学図書

2500029797



文庫  
0  
933  
9797



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

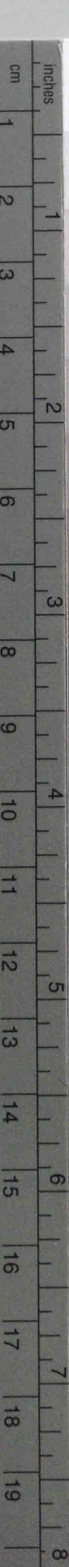


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



41152

教科書文庫

4
1720
32-1933
25000 29798

32-1933

教科書文庫

4

720

32-1933

2500029797

登録番号	29797
分類	375.98 M

第一學年女子用



國語書 本手方



文 部 省

広島大学図書

2500029797



仰 觀 山

俯 聽 泉

凡 例

一、本書ノ漢字ハ、古人ノ筆蹟、世間ノ慣用等ヲ參酌シテ、書寫ニ便ナル體ヲ選ベリ。タメニ字典ニ載スル所ノモノト體ヲ異ニセルモノモ少カラザルヲ以テ、別ニ字典所載ノ體ヲ掲ゲテ之ガ異同ノ比較ニ資セリ。

一、本書ハ、毎卷、和漢古人ノ名筆ヲ選ヒ、鑑賞資料トシテ卷末ニ附載セリ。

仰<sup>イウ</sup> 觀<sup>カン</sup> 山<sup>サン</sup>  
 俯<sup>フ</sup> 聽<sup>テイ</sup> 泉<sup>セン</sup>

(白氏文集ニ據ル)

史	籍。	歌
集。	醫	書。

高國女一

2

高國女一

史 籍 歌

集 醫 書

二

朝踏落花

暮隨飛鳥

朝踏落花

暮隨飛鳥

(和漢朗詠集二據也)

菜の花や月は

東に日は西に 蕪村

白露をこぼさぬ

秋のうねりかな 芭蕉

菜の花や月は

東に日は西に 蕪村

白露をこぼさぬ

秋のうねりかな 芭蕉

空 夜 窓 閑

深 更 軒 白

空 夜 窓 閑

深 更 軒 白

(和漢朗詠集三抄九)

朋 友 歡 樂

信 義 愛 情

朋 友 歡 樂。

信 義 愛 情。



此の間のお手紙によれば春月初  
 には文子さんをお連れになり御  
 いでなさるとの事に一同大喜に  
 今より御待ち申上げ候文子さん  
 も此の春よりあんよが出来候由  
 母上も早く見たしと毎日申

此の間のお手紙によれば来月初  
 には文子さんをお連れになり御  
 いでなさるとの事に一同大喜にて  
 今より御待ち申上げ居候文子さん  
 も此の春よりあんよが出来候由  
 母上も早く見たしと毎日申

居られ候私も學校のひまに一  
 つ身の單衣を縫ひ居候これを  
 着せたらばいかにかはゆらしから  
 んと一入待遠しき思のせられ候  
 何卒一日も早く御いで下された  
 くそれのみ樂しみに致し居候

居られ候私も學校のひまに一  
 つ身の單衣を縫ひ居候これを  
 着せたらばいかにかはゆらしから  
 んと一入待遠しき思のせられ候  
 何卒一日も早く御いで下された  
 くそれのみ樂しみに致し居候

廉。潔。質。素。克。

己。忍。耐。從。順。

廉。潔。質。素。克。

己。忍。耐。從。順。

八 月 洞 庭 秋

瀟 湘 水 北 流

(唐詩選二據)

高國女一

10

高國女一

八 月 洞 庭 秋

瀟 湘 水 北 流

+

露おかぬ方もありけり夕立の

空よりひろき武蔵野の原

露おかぬ方もありけり夕立の

空よりひろき武蔵野の原

秋色西より來  
り、蒼然として  
關中に満つ。

(唐詩選二據ル)

高國女一

高國女一

秋色西より來

り蒼然として

關中に満つ

長 安 一 片 月

萬 戶 擣 衣 聲。

(唐詩選ニ據ル)

長 安 一 片 月

萬 戶 擣 衣 聲

欲 知 間 居 趣

來 尋 山 水 幽

(懷風藻二採也)

高國女一

14

高國女一

欲 知 間 居 趣

來 尋 山 水 幽

十四

1155-1156-1157



うち向ふ月は一つの影ながら

浮かぶは千々の思なりけり

15

高國女一

高國女一

うち向ふ月は一つの影ながら

浮かぶは千々の思なりけり

十五

赤。城。榛。名。妙。

義。秩。父。筑。波。

赤城榛名妙

義秩父筑波

泰山は土壤を  
譲らず河海は  
細流を擇ばず。

(史記ニ據ル)

高國女一

17

高國女一

泰山は土壤を

譲らず河海は

細流を擇ばず

十七

國の安危を一身に

擔ふ御身ぞむざく

ところにて御最期ある

べしや疾く落ち給へ

國の安危を一身に

擔ふ御身ぞむざく

ところにて御最期ある

べしや疾く落ち給へ

送 雪 梅 花 笑

含 霞 竹 葉 清

(懷風藻二據也)

高國女一

19

高國女一

送 雪 梅 花 笑

含 霞 竹 葉 清

十九

前途程遠し思  
を雁山の夕の  
雲に馳す。

(和漢朗詠集二據ル)

高國女一

20

高國女一

前途程遠し思

を雁山の夕の

雲に馳す

11+

故郷の花

讀人しらず

ささなみや志賀の都はあれ

にし昔ながらの山ざくらかな

故郷の花

讀人しらず

ささなみや志賀の都はあれ

にし昔ながらの山ざくらかな

長 生 殿 裏 春  
秋 富 不 老 門  
前 日 月 遲

(和漢朗詠集ニ採ル)

高國女一

22

高國女一

長 生 殿 裏 春  
秋 富 不 老 門  
前 日 月 遲

11+11



月日の過行くは梭の飛ぶよ  
 りも早しとか昨日今日種を  
 下し苗を移しし花卉野  
 菜の花咲き實を結ぶも暫  
 しの程ぞ待たるものは秋  
 の日にこそ

月日の過行くは梭の飛ぶよ  
 りも早しとか昨日今日種を  
 下し苗を移しし花卉野  
 菜の花咲き實を結ぶも暫  
 しの程ぞ待たるものは秋  
 の日にこそ。

頌曰

法無行藏隨人去來似寶難得得則心開

投身半偈豈論寶財孜孜書寫其來悠哉

願此介福國泰人蕃一聞一見並悉脫煩

大同元年十月廿二日入唐學法沙門空海

頌曰

法無行藏隨人去來似寶難得得則心開

投身半偈豈論寶財孜孜書寫其來悠哉

願此介福國泰人蕃一聞一見並悉脫煩

大同元年十月廿二日入唐學法沙門空海

たいしらす  
 ありはらのゆきひらのあそむ  
 たちわかれいなはのやまのみねにおふる  
 まつとしきかはいまかへりこむ

ちとせまでちきりしまつもけふよ  
 りはきみにひかれてよろつよやへむ 能宣

傳紀貫之書 古今和歌集

たいしらす

ありはらのゆきひらのあそむ  
 たちわかれいなはのやまのみねにおふる  
 まつとしきかはいまかへりこむ

傳藤原行成書 和漢朗詠集

ちとせまでちきりしまつもけふよ  
 りはきみにひかれてよろつよやへむ 能宣

昭和八年二月十三日翻刻印刷

昭和八年三月十五日翻刻發行

高等小學國語  
キ方手本第一學年女子用

定價金九錢は

著作權所有

發行者兼

文 部 省

昭和八年二月十七日  
文部省檢査日

東京市小石川區指ヶ谷町百三十六番地

翻刻發行  
兼印刷者

東京書籍株式會社

代表者 石 川 正 作

東京市小石川區指ヶ谷町百三十六番地

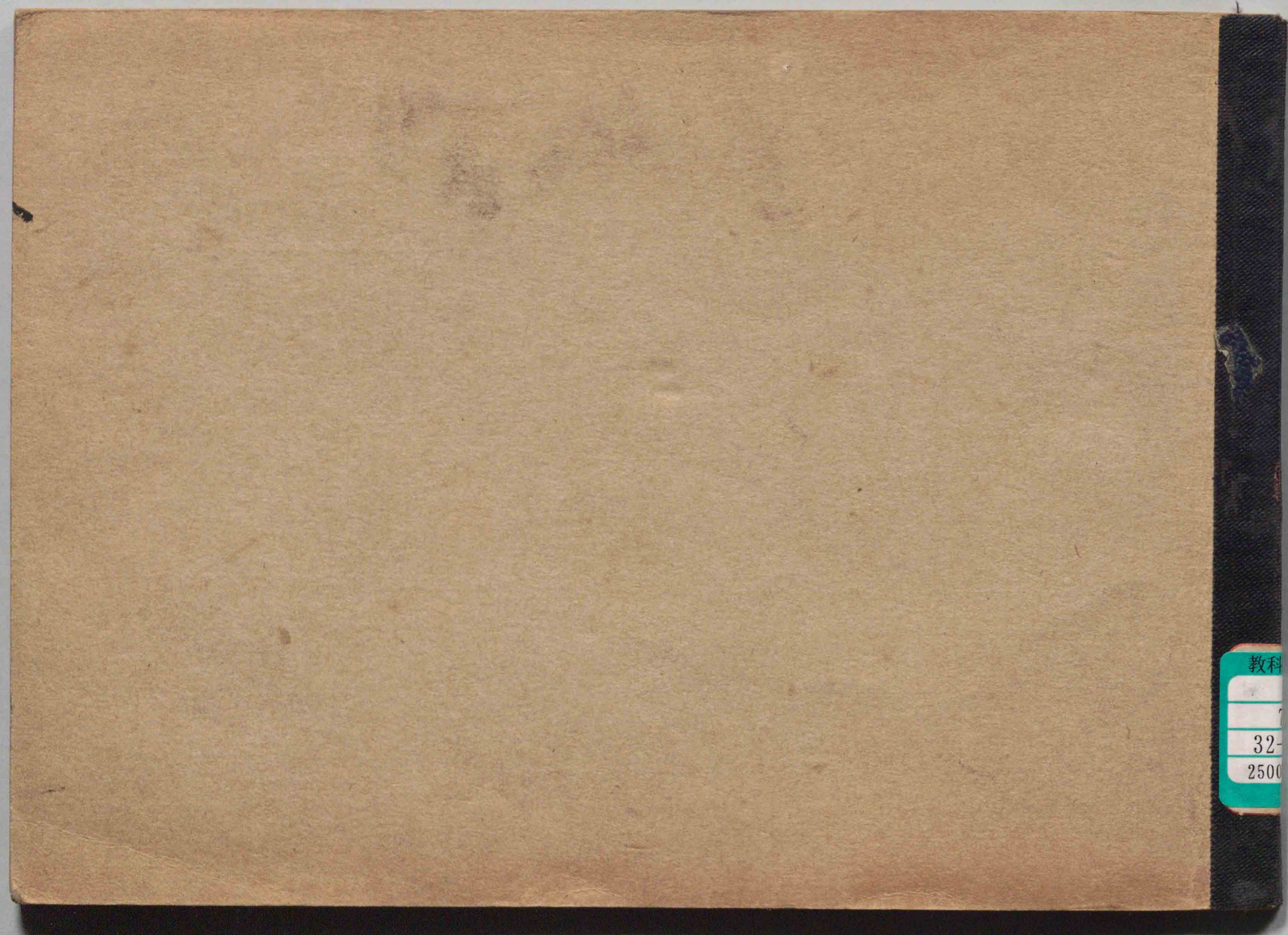
印刷所

東京書籍株式會社工場

東京市小石川區指ヶ谷町百三十六番地

發行所

東京書籍株式會社



教科  
32-  
2500